

若狭湾水中散歩

京大水産 実験所 益田 玲爾

イイダコ

大學二回生の頃、下宿でタコを飼っていた。六月(英語でJune)の海で捕まえたので、ジュンコと名付けた。体長十五センチほどのマダコであつたと思う。とてもよく慣れて、筆者の手から餌を取つては旺盛に食べたものだ。アサリを抱え込んで、吸盤を殻に吸い付けて、「いちにのさん」という調子で無理矢理に開けてしまった。しかしある晩、ジュンコは水槽から脱走を謀

り、行方不明になつてしまつた。

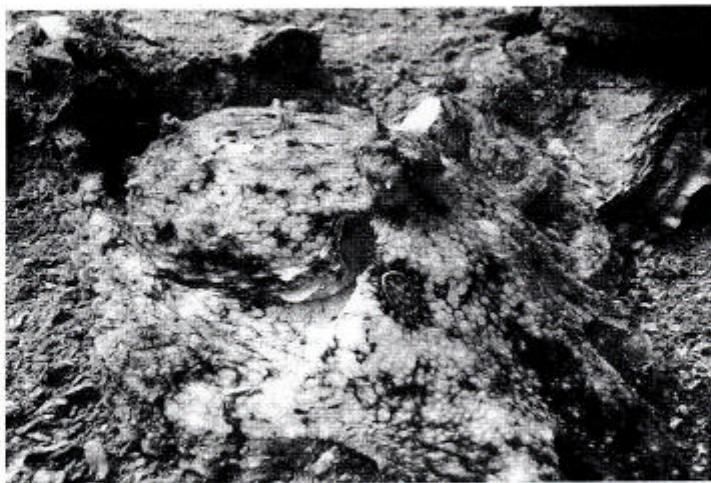
さて、写真のタコはイイダコで、砂の下や貝殻の中にかくれていること

り、行方不明になつてし
とつて、目玉を攻撃され
たら致命的だ。そこで、
体の比較的どうでもよい
場所に目玉模様をつけて
おき、敵の攻撃目標をく

目玉模様で敵の攻撃くらます

が多い。水槽で飼つてみると、やはり普段は砂に潜つていて、アサリを与えると、やがてカニを簡単に避けたいアシデントの一つだ。タコにキスマーチをつけられたカニを簡単に仕留めると巨大的なタコにちがいない」と思つて逃げていく。タコは、無脊椎動物の写真の中央やや上にあ
るものが本物の眼で、それかもしけない。こういふのを、生物学の用語で攻撃擬態と呼ぶ。

んな芸を覚えるし、脳もしか生きられないのに、比較的大きい。成長も速くて憶えもよいが、一年寂しい思いをする。



写真は体長15センチのイイダコ＝長浜、
水深3メートル